

2007年度よりみすみ病院に整形外科常勤体制が始まり、4年目を終えた。

高齢化・過疎化の進む宇城・上天草地域であるが、当院整形外科のニーズは高く、2010年度は延べ外来患者数5,962名となり地域医療に貢献できた。(図1)

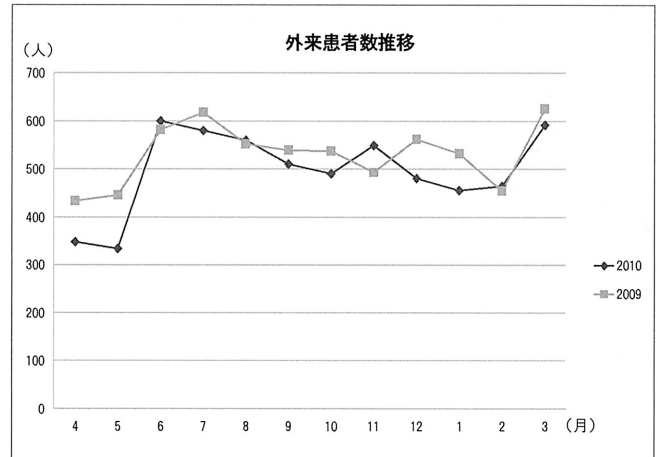
外来診療回数を週4回維持し、地域のニーズに応えた。外来ではMRIや骨密度測定など画像診断機器を用いて正確な診断を心がけ、関節内注射や神経ブロックなど除痛効果の高い保存療法を選択し、それでも改善しない症例は積極的に手術を勧めてきた。当院では高齢者の骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症が主要臨床テーマである。2011年度も地域で支持される整形外科診療を行っていきたい。

2010年度の手術件数は4月～5月の2ヵ月不在期間があり129件となった(図2)。高齢者の大腿骨転子部骨折に対し骨接合術20例、大腿骨頸部骨折に対し人工骨頭置換術11例、骨接合術を31例行った。可及的早期の手術を行い、早期離床、ADLの自立を目指している。

人工膝関節置換術(TKA)は19関節、人工股関節置換術(THA)は3関節を行い、2011年2月で人工関節置換術100例を達成した。

退行性疾患(OA)やリウマチ性疾患(RA)に対する人工膝関節置換術(TKA)、関節外科手術、手根管症候群や肘部管症候群などの絞扼性神経障害の開放除圧術などの外傷性疾患以外の手術も積極的に行ない、宇城・上天草地域の中核医療機関となれるよう取り組みたい。

(図1)



(図2)

